

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197100027		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホーム すずらん (1号館)		
所在地	砂川市空知太西1条3丁目3番12号		
自己評価作成日	平成23年1月12日	評価結果市町村受理日	平成23年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197100027&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・冬以外は、月に1度程度の外出行事を計画し、全員参加している。また、市のふれあいセンターより、月に1回体操のボランティアの方々が来訪したり、歌や踊りのボランティアの慰問など、利用者様の楽しみにもなっている。

・職員のサービスの質向上を図る為、内部勉強会を定期的に行い、地域包括支援センターの職員等からの協力を得ている。

・ほとんどの利用者様は、2週間に1度協力医療機関である医師の往診を受けており、事業所の看護師が中心となって、医師との連携を図り、指示や助言をいただき、利用者様の安心にも繋がっている。

・同市に、認知症疾患医療センターのモデル病院があり、受診時の相談はもちろん、地域医療・介護関係者向け研修会や市民対象の健康フォーラムが随時開催され、職員が勉強できる機会も多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平成21年11月に隣接する同一法人のグループホームの庭を囲むように建てられた。同一法人の既設事業所のノウハウを基に、新しい事業所づくりに運営者と管理者、職員が丸となって取り組んでいる。家庭のような穏やかな暮らしを、専門職の見守りとケアの下で安全に送れるよう、職員の定着と育成に力を入れている。利用者一人ひとりの生活を支える介護計画には、利用者自身の言葉を盛り込み、利用者の個性や思いを介護職員全員が受け止め、その人らしい生活を支える指針としている。また、事業所として職員一人ひとりの学びたい気持ちや自発性を尊重し、研修費の補助などを行い、参加を奨励している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を目の付く場所に貼り、時々振り返り、理念に基づき日々の業務に当たっている。	隣接する同一法人のグループホームの運営理念を共有し、職員が毎月の会議の中で理念に基づいたケアに地道に取り組むことを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方が、施設見学に來たり、町内の敬老会に参加したりと、地域の交流に努めている。	事業所の開設時に地域の人を招待し、交流を行っている。町内会の行事や敬老会などへの参加を通じて、利用者が地域の一員として生活できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内や地域の方々に、防災訓練などに参加してもらい、グループホームのあり方など理解してもらう様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所の利用状況や取り組みの報告を随時行い、関係者との連携や協力体制に繋げている。	平成21年11月の開設後、運営推進会議を4回開催しているが、家族の参加には至っていない。行政や地域住民の参加はあるが、事業所の行事などの概要の報告に留まっている。	家族等へ運営推進会議への参加を広く呼びかけると共に、会議の内容を参加していない家族や職員と共有しながら共に利用者を支え、事業所の質の向上に役立てるような取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や、地域包括支援センターの職員に、事業所の実情やケアサービスを報告、相談し、日常的に連携を図っている。	市とは施設長が窓口となって、事業所運営に関わる連絡や情報交換を行っている。また、事業所内研修の開催時に行政から講師を招くなど、必要な場合に協力を得られるよう日ごろから連絡を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。利用者様が外に出る時はさりげなく見守りし、一緒に散歩等するなど、本人の意思による行動を尊重し、身体拘束をしない支援を心がけている。	ケア会議の中で、実際の場面を用いながら職員が身体拘束について話す機会を持っている。玄関やユニットごとの入り口は日中の施錠をしない。利用者は自由にユニット間を移動したり、見守りや職員の同行による安全な外出を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員、管理者が同じ考えの下、虐待防止に努めている。定期的話し合いの場を持ち、虐待の防止や早期発見を徹底していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や、利用者様、ご家族、関係機関などを中心に支援している。職員は制度等を学ぶ機会が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に管理者等が面談し、不安や疑問を尋ね、十分に説明を行い、理解・納得を得る様にしている。また、施設見学をしてもらう事で施設の雰囲気等を感じてもらい、安心感に繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会時に気軽に話せる雰囲気作り心がけられている。利用者様からの要望が出た場合は直ちに検討し、対応できるよう努めている。	面会時などに家族等の話を聞くようしており、実際に要望などを受けた際には、職員や管理者、運営者等が検討し、対応を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議や、カンファレンスなどで意見等聞く機会を設け、運営に反映させている。	運営者は日ごろから、利用者や職員の状況を把握している。毎月の会議に運営者が参加し、職員からの意見を受け、職員からのシフトの希望や人員配置などの要望に応えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事への取り組みや意欲等を管理者は施設長へ報告等をし、把握している。また、勤務希望など出来る限り叶え、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の実施や、研修・講習会などの参加にて知識や介護技術など身に付けるよう努めている。また、日常の業務の中で先輩から後輩への指導もを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修会等を通じて、交流する機会があり、情報交換等を行っている。今後は他のグループホームへの見学も行っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を職員にも提供し、情報共有を図り、サービス開始に繋げている。利用者様との会話等で本人の思いを理解し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には管理者等が中心となり、ご家族とも面談や電話等で困っている事などを聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を参考にしたり、入居してからの必要な支援や気付いた事などは、連絡ノートの活用で情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者様の意見を伺ったり、料理を習ったりしている。コミュニケーションを大切にし、お互いに心地良く過ごせるよう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来た際には、利用者様の日常の様子を伝えたり、一緒に外出や外泊ができるようご家族にも協力を得ながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せきなどの面会や、入居前からの馴染みの美容室へ行くなど、関係が途切れないよう支援している。	利用者の利用開始前の状況を、家族や関係していた居宅サービス事業所などから聴取し、利用者が大切にしている関係や場所などを把握している。友人の来訪を歓迎したり、家族を誕生会に招待するなどの機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士は、積極的にコミュニケーションを取っている。苦手な人や、孤立している利用者様には職員が間に入るなど配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の関係者に、必要な情報を提供し、今までと変わらない生活が送れるよう配慮している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、一人ひとりの思いや希望を聴き、職員で検討し、意向に添えるように努力している。	センター方式のアセスメントを行うことで、職員一人ひとりが利用者本位に考えるように努めている。把握した意向は、連絡ノートなどで職員が共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活習慣に沿った暮らしができるよう、本人やご家族から情報を得て、把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方ある程度把握し、本人の心理状態や体調に合わせて、自立支援を行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などにご家族や本人の意向を確認している。また、モニタリングは職員全員で話し合い、職員の意見を参考に介護計画を作成している。	モニタリングと介護計画の見直しを3ヶ月おきに実施し、職員一人ひとりの目線で検討している。ユニットごとに会議を行い、職員同士の情報交換を交えながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や普段と違った行動や言動など、記録に残し職員同士で情報共有し、実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望に応じて、理容室や美容院の利用を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や利用者様から情報収集をし把握に努めている。また、ご家族の協力を得ながら地域の資源を利用している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を基本とし、ご家族が受診の対応をしている。ご家族、利用者様の希望や選択によって、事業所の協力医療機関の受診を受けている。	かかりつけ医の受診結果は事業所の看護師が把握し、往診医との連携を行いながら、利用者の健康管理や必要な場合に専門医などにつなげるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の日々の観察から気付いた体調の変化を職場内の看護師へ報告・相談している。看護師とは24時間連絡が取れる体制になっており、指示や処置等、適切な看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、添書にて情報提供を行っている。また、入院中も経過等、病院の担当者と話し合い、早期退院できるよう連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、面会時に日々の様子や変化等を報告している。重度化してきた場合にも、ご家族と話し合いを持ち、今後の方針等を決めている。	終末期には、家族と相談の上、適切な医療機関等に引き継ぐことを契約時に説明している。重度化についても利用者や家族の意向を汲み取りながら、話し合いを行うことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルはいつでも見える場所に置いてある。全体会議等で看護師を中心に、勉強会にて少しずつ学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防火訓練を行っている。町内の方々の参加も呼びかけ、協力体制を築いている。	開設後に屋間想定避難訓練を一度実施している。訓練には町内会からの参加もあった。また、非常時の緊急連絡網に近隣の協力者を加えるなど、徐々に体制づくりを行っている。	夜間想定訓練などを含め、定期的な実施が必要である。防火点検や運営推進会議などで課題を話し合い協力関係を築くなど、利用者の生命を守るため早急な取り組みが期待される。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への尊敬の気持ちを忘れず、誇りや尊厳を損なわないよう努めている。	共に暮らす利用者全体に対する配慮と、個別性を重視した対応を大切にし、接遇やケアの場面で配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの好みの把握をし、本人の話を傾聴し、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの持っている生活ペースに合わせて、スタッフや業務の都合にならないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みや希望により髪型やアクセサリー、服装など支援している。また、いつも清潔でいられるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に調理に参加してもらい、得意な物を作っていたり、食事の一連の作業を利用者様と共に行い、食事が楽しい物になるよう心がけている。	ユニットごとにメニューを考え、利用者と一緒に調理をしている。楽しく食事を摂れるように声かけをしたり、嚥下や咀嚼の状態に合わせた調理を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事の残量等、記録に残し、健康管理や、食べられる量の把握に努めている。また、好みに応じた食事の提供も出来る限りで行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った方法で口腔ケアをし、清潔保持に努めている。口腔ケアの重要性も学んでいる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がトイレで排泄している。日中はリハビリパンツから布パンツにはき替えたり、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。	日中はトイレでの排泄ができるように支援している。夜間もポータブルトイレの使用などで、安全に配慮しながら利用者の状態と希望に沿った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やプルーンの摂取を促したり、個々に合わせて、ヤクルト、青汁等の提供をしている。また、調理の工夫や水分補給に気を付けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングを図って意思を確認している。また、その時の体調等にも配慮し、支援している。	利用者ごとの入浴回数は週2回程度となっているが、特定の入浴日を決めるのではなく、毎日入浴可能となっている。家族とも相談しながら、利用者の体調と気分を尊重して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間、安眠できるよう努めたり、利用者様の一日のリズムに合わせて睡眠ができるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、誤薬を防ぐ為に、カートやファイルの使用や、薬の袋に日付等詳細を印字している。一人ひとりの薬の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみができるようカラオケや昔話をするなどセッティングや支援をしている。また、こちら側の押し付けにならないよう心がけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の行事で外出する他、ご家族と外出や外泊をした り、日常では天気の良い日には近所を散歩したりと、できるだけ外に出る機会を作っている。	りんご狩りなど季節に合わせた外出行事を企画し、利用者の楽しみにつなげている。隣接するグループホームとの間に広い中庭があり、菜園として活用し、野菜づくりや他ホームとの交流などを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の能力に応じて、また家族が希望する場合などは、お金を所持し、買い物等ができるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、見守りの下ご家族等に電話や手紙ができるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を心地良く過ごせるよう、温度・湿度等にも気を配り、清潔に心地良く過ごせるよう環境作りをしている。また、季節によって掲示物を変え、室内でも季節を感じられるよう工夫をしている。	共有スペースは広々としており、地域からの訪問や他ホームとの共同行事も行えるようになっている。また、和室やフロアの気に入った場所で利用者が思い思いに過ごせるようになっている。利用者の生活や身体状況に対応できるよう設計しており、男女別トイレなど快適性と安全に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では一人ひとりが思い思いに過ごしている。気の合う利用者様同士はフロアで会話をするなど、自由に過ごせる空間になっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を持ち込むことにより、居室等を自分の居場所と認識してもらい、その人らしい過ごし方ができるよう工夫をしている。	趣味や思い出の品物、仏壇への毎日の供物など、利用開始前の生活や習慣に配慮しながら、継続できるように支援している。また、利用者がそれまでの生活を思い出し、生活の張りや尊厳となるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、個々の身体状態によって手すりや杖、シルバーカーを使用したり、トイレ等の場所が認識できない場合は、目印をつけるなど、自立した生活が送れるよう工夫している。			